



まさに、梅雨一色です。先日、6年生は、一番風呂ならぬ、一番プールに入ろうとしましたが、突然、雷と大雨に見舞われ、残念ながら中止としました。中止を決定するやいなや、少しずつ天気は回復に向かい…。今年も天気に悩まされる1年になりそうです。

さて、先日は、第1回目の全体研究日でした。そこである程度お話ししたので、蛇足になるかと思いましたが、やはり思い立って振り返ることにしました。今回提案していただいた「白島ぶらん」から気付いたことと、お話しできなかった「授業参観」について、少しだけお話ししたいと思います。

## 1 「白島ぶらん」をよりよくするために

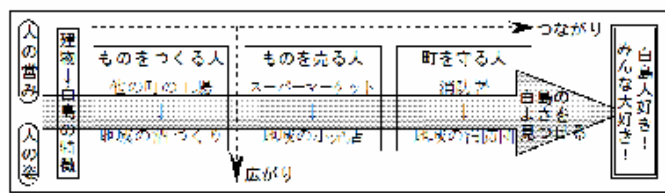
「白島ぶらん」構築の意図は、子どもの学びをデザインするところにあります。これを踏まえて、今年度の提案から感じたことは、次の3点です。

1点目は、つながり・広がりです。単に、単元や取組を羅列するのではなく、一つのテーマを柱に、いくつかの切り口からの学習・取組をつないだり、広げたり、学習内容で支え合ったりすることによって、学ばせたいこと（認識・内容）に迫っていく子どもの学びをイメージしていただきたいと思います。これが教科・領域のリンクです。学びのデザイン化は、（頭の中で）されているものの、それが「白島ぶらん」の紙面上に反映されていないとも言えるかもしれません。

2点目は、ゴールである学ばせたいこと（認識・内容）の設定です。ねらいと目指す子ども像に基づいて、どんな認識を持たせたいか、どんな心情や態度を抱かせたいかを具体的に持ち、そこまで高めていくために、どんな学習・取組が必要か、つなげると効果的かというように、年間のプランを考えていくことになると思います。

学ばせたいことと密接に関連しているのは、テーマと目指す子ども像です。テーマに設定されたキーワードやものの見方・考え方を貫いてそれぞれの題材に迫ったり、それぞれの単元・題材を通して、一つの問いを追究したりして、スパイラルに学びを紡いでいくことになります。

これら2点を3学年を例に説明



【資料①：3学年の学びのつながりと広がり】  
マを「知ろう！伝えよう！『ザ・はくしま』」と設定し、「地域のものや人との出会いを通して、人と地域社会とのつながりを考える」子どもを目指しています。そこで、地域とかかわり、白島のものと人の営みや姿（切り口）から、白島のよさを見つけていくこと（貫くものの見方・考え方）を通して、地域に対する誇りと愛情（学ばせたいこと）を育てようとしています。具体的には、「建物」から町の特徴をつかんだ上で、町を特徴付ける「ものをつくる人」、「ものを売る人」、「町を守る人」について、人の営みから姿へと広げ、他の町と比べてそれぞれのよさをつないで、「白島大好き。みんな大好き」という地域社会への誇りや愛情を育てようとしています。これを図示すると、前頁

の〔資料①〕のようになります。

3点目は、42号のまとめにも同じことを書かせていただきましたが、新しい教材への挑戦です。これまでの取組の成果を生かしたり、追試したりすることは、大切なことです。しかし、そのままを踏襲するばかりでは、よりよいものが生まれないのではないのでしょうか。今年度は、外部に公開するのではなく、地道に校内で研究推進をするので、何か一つ、どこか一つ、これをしてみよう、ここを変えてみよう、新たな開発をしていきたいと思います。

## 2 授業を見合うための手立てとは

よりよい授業をつくるための授業力を付けるためには、互いに授業を見合う機会を持つことが大切です。子どもの様子や発問・支援などの手立てについて、質問やコメントをし合うことによって、互いの授業を客観的に見ることができたり、授業で行う一つ一つの手立ての意図を明確にして、自分の授業の手法や原理に替えたりすることにつながります。1時間通して参観しなければならないわけではなく、授業の仕掛けの中心になる場面や思考と学び合いの山場だけの参観でも十分だと思います。

また、授業検討をするためのワークシートとして、「学び合いシート」を活用してみてください。授業前に、①問いに至る手立て、②問いと思考の仕方、③学び合うための手立ての3点だけでも書き込んで授業を見合い、その有効性を検討します。あるいは、授業後に、展開した通りを書き込み、その授業でうまくいったところ、いかなかったところとそのわけを検討することも考えられるでしょう。①～③の手立ての3点が本校授業論の骨組みですから、それを枠として授業検討してみてください。

次に、授業の見方のコツを二つお示ししたいと思います。

一つ目は、横から参観することです。よく後ろに立って参観されますが、それでは、先生の姿しか見えません。先生の手立てと子どもの反応を関連させるためには、前から横にかけての位置がよいと思います。授業の様子を録画する場合も同様です。私は、だいたい、窓際の事務机近辺から撮ります。

二つ目は、授業分析の観点です。私は、授業に限らず、ものを見る際の着目点ととらえています。これは、広島大学の小原先生がいつも実践されていることで、私も有森先生も修士の時代にたたき込まれました。授業以外でも、活用してみてください。

まず、「記述」です。この授業の特徴やよさを、ねらい・内容・教材・方法の授業構成から見出します。

次は、「説明」です。「記述」で見出した特徴やよさについて、このような授業になるわけやよさが出る仕組みを検討します。具体的には、ねらい・内容・教材・方法の一連のつながり（授業論）とそれらの有効性について検討することになるでしょう。

最後に、「判断」です。この授業をよりよくするための改善策、具体的な手立てを検討します。これは、授業論のレベルから、授業の手法のレベルまで検討することになるでしょう。

示範授業や観察授業が始まっています。この機会に、互いの授業を見合いましょう。そして、授業づくりについて話しましょう。日々、様々なことに追われる中で、なかなか話す時間と余裕がないというのが現状かもしれません。しかし、私たちの本業は、授業づくりであり、子どもは、授業でこそ育つと思います。先生方とさらに共通理解し、よりよい授業づくりを進めていきたいと思います。